

西濃農林事務所の普及活動状況

平成28年7月29日現在

今月の重点活動

■水稲 斑点米カメムシおよびジャンボタニシ対策 全域

「あきたこまち」「ひとめぼれ」等の早生品種がやや早めの出穂期を迎えているが、7月14日に病害虫防除所から斑点米カメムシの発生予察注意報が出されたため、農業普及課では各品種に対して出穂期に合わせた出穂期前後の除草や薬剤散布について関係機関等を通じて注意喚起を行っている。

また、「ハツシモ」では、暖冬の影響から大垣市、安八郡各町、養老町を中心に田植え直後にジャンボタニシの被害が昨年より大幅に拡大し、補植や植え直しを余儀なくされたほ場が多く出た。農業普及課では防除対策を示したパンフを季節別に3種類作成し、「夏～秋」バージョンを配布して注意喚起を行った。なお、「秋～冬」「春」バージョンは時期に合わせて後日配布する。

※ジャンボタニシの防除対策※



今年度ジャンボタニシ(スウズメタニシ)の発生が多く、田植え後の早い時期に大きく被害を受けました。暖冬の影響で越冬した成虫が多かった事が原因と考えられます。今秋(晩秋)の被害を抑えるため、ジャンボタニシの数を減らしましょう。

- 被害の防除
- ▶成虫、卵を採取し処分します。捕獲した成虫は乾燥した中に埋没します。捕獲する場合は必ずゴム手袋をします。
 - ▶卵は水中では呼吸できずに死滅するため、注水や水路で成虫の捕獲を促す場合は、水中に酸素ポンプを設置します。
 - ▶水田の排水路は開けられると水田などに集まるので、捕獲し処分します。
 - ▶地域ぐるみで排水路の隅や排水溝を掃除すれば、広域的に発生を抑える効果があります。
 - ▶パイプラインへの投入を防ぐため、古い5mm網の網を取り替えます。
 - ▶多発地域では2月以降できるだけ早く網を敷き替えます。

ジャンボタニシについて
和名スウズメタニシ(スウズメタニシ)といい、1981年頃から食用を目的に輸入され、飼育のための産卵場から逃げ出したものが定着しました。最近の発生を抑制し、1回で500-5000個卵を産んで被害の増殖を防止し、卵の除去が目的です。また、成虫は乾燥した状態で越冬しますが、寒さや乾燥には弱いです。

多様な担い手づくり

■新規就農者等 平成28年度農業やる気発掘夜間ゼミ講師等対応

「平成28年度農業やる気発掘夜間ゼミ(全6回)」で、管内の新規就農者らが体験談(3回)とバスツアー対応を行った。

6月24日は市川氏(海津市 トマト研修生1期生)、7月8日は伊藤氏(大垣市 イチゴ)が、就農までの経過から現在の状況を踏まえて受講者にアドバイスをを行った。7月29日は(株)西濃パイロットの木村氏(大垣市 水稲)が雇用就農者の体験を話した。7月3日のバスツアーは田家氏(海津市 トマト研修生1期生)のハウスの訪問がなされた。



【市川氏の講演】

■農産加工グループ等 農村女性による起業活動実態調査

5月～6月上旬にかけて、管内の農村女性起業組織等18組織(個人含)に対し、実態調査を行った。調査結果では、拡大意向がある組織は6組織(「アイスクリーム工房ケルン(海津市)」「手作り梅干し会(海津市)」「なすびや(海津市)」「月見の里南濃農畜産物処理加工組合」「豆菜花クラブ(大垣市)」「関ヶ原こんにやくグループ)」であった。

昨年度の売り上げについては、1000万円以上が2組織、500～1000万円が2組織、300万～500万未満が3組織、300万未満が11組織であった。

売れるブランドづくり

■冬春野菜の実績

<トマト>

平成28年産の実績(前年対比)は、出荷量110%、販売額101%及び単価92%であった。

<きゅうり>

平成28年産の実績(3か年対比)は、累計数量96%、販売額100%、単価104%であった。

<ナバナ>

平成28年産の実績(前年対比)は、出荷数量95%の64t、販売額89%の3,004万円と減少を最小限としている。

■えだまめ **ダイズシストセンチュウ対策を実施**

ハウスえだまめの一部のほ場においてダイズシストセンチュウによる黄化症が確認されている。根部が加害されることにより葉の黄化、生育阻害、着莢数の減少が発生し、収穫が得られないほ場もある。センチュウは靴や農機具に付着して移動するため、汚染ほ場の拡大が懸念されている。

土壌中のセンチュウ数を調査し、発生密度にあわせた防除対策について情報提供するとともに、土壌消毒対策試験を実施する計画である。



【ダイズシストセンチュウの被害ほ場】



【ダイズシストセンチュウ全長約 0.4mm (検鏡下)】

■なし **なしの出荷始まる**

7月7日に大垣市曾根地域でハウス幸水の収穫が始まった。今年は糖度が高く品質の良い梨に仕上がった。

続いて7月27日に「なつしずく」、29日には「幸水」の目揃会が開催され、出荷が本格化している。

大垣市のなしは性フェロモン剤や天敵を利用した害虫防除を行っており、農薬の散布回数を極力削減している。農業普及課からは病害虫等に関する情報提供により、栽培支援を行った。



【なつしずくの目揃会】

■加工用キャベツ（養老町） **「栽培研修会」の開催**

7月8日に加工業務用キャベツの栽培研修会が開催され、栽培支援を行った。養老町では今年約10haの栽培を計画している。昨年カルシウム欠乏が問題となった「彩音」が今年から「YR銀次郎」、「夢舞台」に変更されることから、種苗会社担当者より新しい品種について説明がなされた。

■直売農産物 **大垣ファーマーズマーケット生産者大会** 大垣市（安八町、神戸町）

7月19日大垣地区ファーマーズマーケット生産者友の会（店舗3、JAにしみの事務局、年間販売額約5億円）は総会と生産者大会を開いた。総会において西濃農林事務所長より「安全、安心、新鮮な農産物の安定的な供給」の継続を求めるあいさつを行い、続く生産者大会では大垣市南杭瀬支部の大橋宏さんが西濃農林事務所長賞を受賞した。

■ブロッコリー **栽培前研修会の開催**

ブロッコリー栽培前研修会が各地域で開催されている（7月15日不破部会、7月27日安八部会、7月27日大垣部会、7月28日養老地域）。

このうち、大垣部会及び安八部会では、毎年栽培ほ場を変更する農家が多いため、栽培前に土壌診断を行っている。農業普及課は個々のほ場毎に土壌改良剤施用について処方箋を作成し、診断結果に基づいた資材等の施用について説明を行った。また、12月収穫となる品種・定植時期について説明し、市場要望の高いクリスマスシーズンに向けた出荷を呼びかけた。